# 丹波地域高校 卒業生答辞【中】（敬称略）

## 前向き進むことが恩返し

篠山東雲

3年間を振り返ってみれば、あっという間で、もう卒業ということに驚いています。何げない会話や、みんなと笑い合った日々は、大切な宝物です。もちろん楽しいことばかりではありませんでしたが、失敗や苦労も含めて良い思い出となっています。

私は、1年生の後半から生徒会に入りました。最初から前向きな気持ちで仕事ができたわけではありませんでしたが、行事の運営に携わっていくうちに、少しずつ責任感も湧いてきました。

2年生のインターンシップでは、慣れないことの連続で不安もありましたが、ここでしか得られない知識を教えてもらってきました。現場実習と同時に課題研究も始まり、友だちと調べ学習からポップ・説明書作りなどをしながら、試作を繰り返しました。完成した商品は、農林漁業祭や文化祭でも販売ができて良かったです。

3年生から始まった現場実習では、仕事をするとはどういうことか、少しだけ体感することができたので、すごく良い経験になったと思います。

テストが迫ってくるのが怖くなりました。2年生の頃より、テスト前に苦手科目を勉強する時間が増えた分、あまり睡眠が取れない時もあり、悩み事も多くなりました。面接練習や自己分析をした時は、自分の長所がなかなか言葉にできず、友だちと同士で長所を出し合えることが多くなると、乗り切れたのは、このクラスでお互いのことをたくさん知っていたおかげだと思っています。

先生方には、個性の強い、協力しながら面接をしたと思います。お母さん・お父さんには、毎日のお弁当や行事の時の送り迎えなど、お世話になりっぱなしでした。一番近くで支えてくれたからこそ、ここまで元気にやってこられました。卒業後も前を向いて進んでいくことで、少しは恩返しできるよう頑張ります。

地域の皆さんには、文化祭での交流をはじめ、これまで温かく見守ってくださったこと、本当に感謝しています。後輩には、これからの篠山東雲高校をより良いものにしていってほしいと思っています。これからもみんなが笑っていられる、元気な学校にしていってください。私たちはこの先、それぞれの道を力強く突き進んでいきます。

2026年3月5日
丹波新聞